随想□私と神戸

明日（あす）は神戸か上海か。

塚田　照夫〈作家〉　絵／灘本唯人

そう古いはなしではない。長崎の、多分喫茶店で、「開港百年」と謳い、メイン・タイトルに「函館―横浜―神戸―長崎」とあるポスターが目についた。

どこ発行のものか確かめなかったが、バックの綺麗なカラー写真が、長崎三菱造船所構内の古い洋館・占勝閣だったから、長崎市かその関係機関の観光宣伝用だったろうと思う。

占勝閣は明治三十七年に建った三菱の迎賓館で、昭和天皇ほか皇族がたなどお泊まりになった。景勝を占める意の命名で、別に明治三十七、八年の日露戦争とは関係ない。

が、とにかく、その時視たポスターが、長崎市なりその関係機関なりのだったとしたら、「函館、横浜、神戸」は、「長崎」のダシか箔づけに使われた、としか思えない。

都市名に版権があるわけはないので、他に理由が無ければ別にインネンの付くまいから、無断借用もかまわないだろうけど、正直わたしはその時、ちょっとうしろめたい気になった。そんな記憶がある。なぜだったろう。

わたしは函館も横浜も、すこしは知っている。神戸は、実は、よく知らない。旧東海道線で素通りして以来、なんども車窓から眺めるだけだった。

それが、五年前の昭和六十一年、「月刊神戸っ子」の第十回神戸文学賞を頂いて、初めて神戸の地に降り立つことになった。

もっとも、同社主催の〝新年の集い〟を兼ねた授賞式に出て、ご紹介いただいたポートピア・ホテル（だったと思う）にひと晩泊まっただけで、あと勝手に生田ノ森から平清盛の福原ノ都、雪ノ御所跡あたりを歩き、清盛塚でかつての「大輪田ノ泊」を偲ぶことはしたが、それで神戸も知っているとは言えないだろう。ただ、「清盛と俊寛」を小説にする気でいたので、丁寧に視るのは視た。脳裏に出没する清盛とばかり語り合っていたが。

他処へいくと、どうしても長崎と較べてしまう。似た規模、性格の街だと特にそうだ。函館でも、函館山（臥牛山）の頂上公園から眺めたクビれた形の市街、その向こうの駒が岳、眼下の函館港、青函連絡船発着桟橋。南へパノラマして津軽海峡。下北半島は見えたかどうか覚えないが、いつの時も息を呑む美しさだった。長崎の稲佐山からの港と市街地と周囲の山やまの風光と見くらべて、そっと溜め息を吐いた。

で、横浜は措いて神戸だが、足を踏み入れるなり、こ

れはもうあきらかに長崎が比肩できるものではないと、すぐに感じた。だいいち都市の規模が違うし、新旧と内外の調和、なによりポートアイランドからさらに六甲アイランドへ拡がるダイナミズムに圧倒された。平相国清盛の、宋を睨んだ築港の伝統は生きていたのだ。以前阪本勝知事だったか、正確ではないが、兵庫県には偉い人がいた記憶がある。

〝神戸っ子〟の嘱託（だろう）米田フォトの米田定蔵さんが、わたしのポートレイトを撮りに、ご自分で車を回して関帝廟へ連れていって下さった。美人記者の瀬川さんが一緒だった。瀬川さんには、神戸を離れるまで厄介をかけた。のちのことだが、わたしの紹介文など、この方の文章力には感心した。

元町あたりの賑やかな処を抜けていった。

「長崎は人口はどれくらいですか」

途中で、米田さんがわたしに訊いた。

「五十万くらいです」

「そんなに少ないんですか。も少しあると思ってました」

と、米田さんはすこし驚いた風だった。

わたしは、なんだか米田さんの期待を裏切ったようで、済まない気がした。

（やはり長崎は、神戸とは釣り合わないか）

縁談の打診みたいなことを考えた。これでもわたしは長崎の人口をサバ読んでる。実際は四十五万そこそこなのだ。

関帝廟は、境内はさして広くはなかったが、改装したあとでもあったか、朱と緑青の色が鮮かだった。

中国の人だろう、然るべき年輩の母娘と思われる女性が二人、香や灯明を上げていた。やはり中国風に叩頭合掌していた。

関帝廟は中国三国史時代の蜀の英雄・関羽を祠った廟だ。待てよ、長崎には関帝廟、あったかな。またしても長崎であった。

長崎には古い唐寺はいくつかある。その敷地内に媽姐堂もある。航海安全の神様らしい。ここの関帝廟よりも大きい、金ピカの孔子廟もある。観光名所の一つになっている。が、関帝廟は、長崎ではわたしは知らない。

中国の人が昔から英雄豪傑として崇める関羽の廟が神戸にあるのは、わたしには一つの発見であった。ひょっとすると、神戸には楊子江上下流域系の人（つまり蜀の後裔）が多く、長崎にはそれより南の〝呉〟の系統の人が多く渡って来たのではないかと、フト思った。むろんわたしのドグマである。

わたしは、急に神戸を身近に感じた。

こんな歌がある。昭和四十六年の発売で、詞は山口洋

子、曲が平尾昌晃、唄・五木ひろし。

『長崎から船に乗って』

長崎から船に乗って神戸についた
ここは港まち　女が泣いています
港の女はお人好し
いいことばかりのそのあとで
白い鷗に　ああ騙される騙される　彼岸花

意味のよくわからない歌だが、また、こういうのもある。これは昭和十年で、古い。渡辺竜夫の作詞、大村能章作曲で、唄は東海林太郎である。

『長崎行進曲』

泣いてみたとて　五色のテープ
切れりゃはかない　波の上
あすは神戸か　あの上海か
空にカモメが　舞うばかり

こっちはシッカリと意味がわかる。それでかどうか、先の『船に乗って』よりも古いのに長く流行った。

神戸と長崎の船便については少しく説明が要る。

明治八（一八七五）年、横浜・上海間に、週一便、のち二便の航路が設定された。のちにこれが名古屋にも寄港するようになり、並行して大阪・神戸・上海間の航路もできた。

その十五年後の大正十二（一九二三）年、長崎・上海間に日華連絡船として、当時としては新鋭船の長崎丸、上海丸が就航し、翌十三年これが神戸まで延長され、横浜・神戸（大阪）・上海航路は廃される。

日本の大陸進出の波に乗って玄海灘、東支那海を渡った二隻の連絡船の、二本の赤線を巻いた日本郵船のマークは有名だったが、第二次世界大戦中はその鮮かな赤もまっ黒に塗り潰され、遂には米潜水艦に二隻とも撃沈されてしまった。

こう察てくると、少くとも日華連絡船の歴史では、横浜・神戸・長崎はポスターに名を連ねてもよかったわけだ。

残るのは函館だが、公領長崎の元の地主の大村藩は、倒幕戦争のとき函館五稜郭の攻撃に官軍の側で参加している。まァ縁はある。お笑いのこじつけだが。

ところがことしになって、わたしの神戸への想いがまたひとつ深くなった。きっかけはまたしても「月刊神戸っ子」だ。ことしの神戸文学賞で、入選は逸したが、長崎の田吉義明さんが『南蛮坂別れ坂』で佳作として採り上げられたのである。

田吉さんはかつての同職の教員で、古くからの小説仲間である。われわれの同人誌「南蛮海流」の出身でもある。住居も歩いて五分くらいの同町内だ。他人事ではない。

ついでに言えば、田吉さんはことしの地元新聞の文芸賞も取っている。実は、去年のこの賞はわたしが貰った。それで神戸でも長崎でも、二人がかりのダブル受賞になった。わたしにとって、神戸がますます近くなるわけだ。

「あすは神戸か、あの上海か」

も一つこじつければ、わたしは、上海で、映画人として社会人の一歩を踏みだしている。

で、上海もだが、神戸は、わたしの中で、いよいよ因縁めいて親近を深めていくのである。

（了）

〈塚田照夫氏の経歴紹介〉
大正6年生まれ。日本大学芸術学部卒。中華映画、教員、市会議員、予備校校長を歴任。同人誌「南蛮海流」を発行。「おどんナ海賊」により第十回神戸文学賞を受賞。長崎市在住

KAKINUMA GALLERY

夢もよう
（油絵）

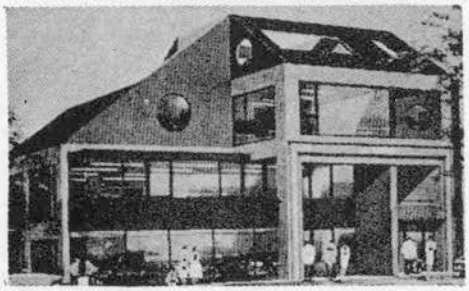
中畑佳子・作
二紀会同人
美術同盟会員

小さな頃から絵が好きで描き続けて来ました。抽象画を意識していた訳ではないですが、心のままに、みはてぬ夢を、キャンバスに広げてゆきます。

（柿沼産婦人科に展示３／１～３／31）

芦屋 柿沼産婦人科

★健保適用　産婦人科・内科（女性専科）



阪神芦屋駅北へ１分・芦屋警察署東隣り
☎（0797）31―1234（ＦＡＸ兼用）
月曜～土曜まで診療しています。木曜・土曜は午前のみ。
当GALLERYに掲載ご希望の方は月刊神戸っ子まで御連絡下さい。

Golden Interlude

ちょっとすてきな気分をあなたに

ひとときの輝き、インタリュード

•

インタリュードは間奏曲
洋菓子の歴史とともに歩んできたユーハイムが
あなたに贈る心なごむくらしの暮合い
"ゴールデン インタリュード"

ユーハイム

第2回神戸っ子賞受賞

朝比奈隆の軌跡を語る

小石　忠男　〈音楽評論家〉

朝比奈隆氏は、一九〇八年、七月九日、東京・牛込に生まれた。東京高等学校尋常科に通う頃より音楽に興味を持っておられた。

その頃、演奏会にしばしば通うかたわら、ヴァイオリンを練習し、高等科時代には、小松平五郎を指揮者とする国民交響楽団に入団。

当時、新交響楽団（現N響）を客演指揮したエマヌエル・メッテルにひかれ、そのメッテル氏が京都帝国大学のオーケストラの指揮者であることも一因となり、一九二八年、同大学法学部に入学した。

当然のことながら、在学中は、京大オーケストラのヴァイオリン奏者をつとめていたのだが、一九三一年、卒業すると阪急電車に入社された。

一九三三年、同社を退社してプロフェッショナルとしての音楽活動を開始し、同時に京都帝大文学部に再入学して美学・美術史を専攻。ヴァイオリンをアレクサンドル・モギレフスキー、指揮法をエマヌエル・メッテル、さらにはレオニード・クロイッァーに師事した。

一九三七年、二十九歳の時、大阪音楽学校教授に就任。

一九三九年には新交響楽団を指揮して、東京で指揮者としてデビュー。それが認められて、一九四二年、大阪中央放送局（現ＪＯＢＫ）の専属指揮者に迎えられた。

一九四三年には中国の上海交響楽団の常任指揮者を兼任したが、翌一九四四年にはハルビン交響楽団と新京音楽団を指揮し、家族とともにハルビンで終戦を迎えた。

そして大阪に戻った後、一九四七年四月、自ら関西交響楽団を組織して大阪で交響楽運動を開始した。

一九五三年、欧米に視察旅行し、まずフィンランドでヘルシンキ市立管弦楽団を指揮した。

一九五五年にはベルリン・フィルとウィーン・トーンキュンストラー管弦楽団の定期演奏会に招かれて指揮した。

朝比奈氏はその後、毎年ヨーロッパに演奏旅行されているが、大阪では経済的な困難にもめげずに演奏活動をつづけ、一九六〇年、関西交響楽団を解散して改めて大阪フィルハーモニー交響楽団を結成した。

その後の活躍に関しては、みなさん周知の通りである。

朝比奈氏が大阪フィルハーモニー交響楽団を指揮したベートーヴェンやブルックナーは、すでに多くのライヴ・レコードとなってわが国の愛好家に知られている。

また一九七五年十月には大阪フィルを率いてヨーロッパ五カ国で二十回の公演を行い、それぞれ好評を得たことも、まだ記憶に新しい。

この渡欧に際して費用の不足分約二十万円を市民運動の募金などで賄ったということは、わが国の音楽史上特筆すべきことであると言えよう。

（続々・世界の名指揮者／音楽之友社／小石忠男著より抜萃）

以上が、朝比奈隆氏の簡単なプロフィールであるが、今回の受賞に際し、音楽評論家の小石忠男氏に朝比奈氏について色々とお話をうかがってみた。

『朝比奈隆氏』は、世界的に有名な指揮者の中

で現在、最年長の方ですね。

まず、朝比奈氏の魅力というのは、楽譜に忠実に指揮すること、つまり、そこに自分の主観を付け加えず、非常に客観に徹するというところです。しかし、そういった部分にこそ、逆にその人の主観めいたもの、つまり、考え方が表れるのです。

そして、そういった考えから出来上がってくる音楽というものはとても立派なものになります。

何と言いますか、人間としてのスケールの大きさを感じますね。

風格の豊かさ、つまり年輪を重ねて熟成した音楽の魅力ですね。これが朝比奈氏の一番の魅力だと思います。

勝手な解釈をしないで、きちっと忠実にやっていながら、そこに何か湧いてくるものがあるのです。

そういった音楽は、我々が聴いていても非常に魅力的に思えるわけです。

これは、朝比奈氏のように〝継続〟しているからこそ、初めて出せるものです。

年齢を増すごとに、みずみずしさを持ってくるような感がありますね。

そのみずみずしさと、先程言いました〝年輪〟とがいっしょになって、独特の境地をつくっているのです。

また、朝比奈氏の音楽の特徴として〝定着性〟ということも挙げられます。

関西という土壌に定着することによって、そこから栄養を吸い上げながら活動してきたということが言えます。

だからといって、当然のことながら、音楽が関西風だというわけではなく、先程言いましたように、楽譜に忠実な、言わば、万国共通の普遍性を持ったものをやり続けておられるのです。

全ての分野で、東京への過度の集中が言われ続けている中で、関西が、このような人材を持ったということは、極めて素晴らしいことだと思います。

若い頃は、バッハから現代音楽まで幅広いレパートリー、つまり二、三世紀の範囲に及ぶものをやっておられたわけですが、だんだんと本人の意向のようなものが出てきまして、言ってみれば、レパートリーは狭くなってきたのですが、それにつれて深さも増してきたのです。

代表的な彼の演奏と言いますと、ベートーヴェン、ブラームス、ブルックナー、マーラーといったドイツの古典派とロマン派の一部、それと、メッテル氏に師事したことと関係して、ロシアの音楽、チャイコフスキー等ですね。

いまでは極限されたレパートリーを深く追求しておられるわけです。

朝比奈氏が本格的に指揮者を目指し始めたのは第二次世界大戦中で、このため、上海とか満州に渡っていたのですが、今から考えてみれば、その頃、日本には無かった優秀な外国のオーケストラを、実験的にも指揮できたというのは、とても有意義なことだったのだと思います。そして日本に帰ってきた時は、非常に困難な時代だったのですが、そういった背景があったからこそ、良かったと思うのです。

言わば、すべり出しがハングリーさを伴ってい

たのですから……。

そういった部分が無ければ、芸術は育ちませんからね。

もちろん、そういった時代を乗り越えられずに挫折する人も多いのですが、朝比奈氏の場合は、そこを乗り起えられたわけです。

また、別の面から言いますと、朝比奈氏はずっと楽団を維持し続けてきたことに見られますように経営の才能があると思います。

ですから、仮に、別の職業についていたとしても、大社長クラスの人物にはなっていたでしょうね。

人の上に立って物事を進展させていく能力と言いますか、そういったものが備わっているといえましょう。

これは、指揮者という立場にある人間にとってとても重要なことです。

とにかく、音楽一筋の方ですからね。若い頃はカメラなどに凝られたようですが、いまではほとんど特別な趣味も無いようでして……。

また、お酒がお好きなので、もちろん食べる方もお好きなようですが……。自分でもたまに料理されているようです。まさに男の料理といった感じで。

自分で材料を買いに行くところから始まり、良い材料をふんだんに使われているようです。私も御馳走になりましたが、たいそうおいしくいただきました。

それ以外には、あまり特別の趣味はなく、美術と文学がお好きなようです。

ただ、非常に勉強熱心な方でして、これと思った曲は何度も何度も繰り返しやられるのです。

演奏の度に、始めから、楽譜を見直しされるのです。ですから、朝比奈氏の楽譜というのは、真っ黒になっています。楽譜に直接、書き込んでいきますからね。

そして、書き込むところが無くなると、新しい楽譜を買ってきてまたそこに書き込むといった具合です。

家にいらっしゃる時は、楽譜を読むのに使われる時間がとても長い方でして、ですから他の事に手を出す時間が無いのですね。

ですから、非常にまじめな方だと言えますね。仕事熱心で、まじめの見本のような人です。

練習なども、時間をいっぱい使ってやられますね。学生のオーケストラに教えるような方法で、基本から教えこまれるのです。

だから、客演依頼などでも、相当の練習時間を提供してくれるという条件でないと、承諾しないのではないかと思います。

このところ、毎年、全国からソロでやっているような人達を集めて行っている倉敷音楽祭というのがありますが、ここで、朝比奈氏が祝祭管弦楽団の指揮をとられています。

これも素晴らしい演奏を聴かせてくれるのですが、やはり、一週間程前から、倉敷にこもりまして徹底的にリハーサルをやるのですね。

これが寄せ集めのメンバーか、と思う程の素晴らしい演奏が出来あがるのです。

オーケストラは指揮者次第ということですね。もちろん、団員の基本的な個性、技術というものもとても大切なのですが、やはり指揮者が自分の

思いを楽団員に伝え、そして、まとめていくということが極めて重要となるのです。

例えば、カラヤンが指揮するベルリン・フィルと、別の人が指揮するベルリン・フィルでは全く異なって聴こえるものなのです。

オーケストラの指揮者の仕事というのは、ものすごくやることが多いのです。

先程、言ったように、自分の思いを楽団員に伝えるということがあるのですが、それだけではないのです。それぞれの楽団員が、その思いを表現できるような状態を作ってあげないといけないわけです。

仮に、技術的に未熟な人がいたとすれば、その人を本番までにきちんと演奏できるようにしなくてはなりません。

ですから、場合によっては、リハーサルとか、練習とかを越えた個人的なレッスンの必要性も出てくるのですね。

そういった全責任を指揮者は負わなければならないのですから、とてもハードな仕事ということが言えますね。

朝比奈氏には、そういった能力が備わっていたわけです。

これからということになりますと、今までに、朝比奈氏がやりたいと思われた演奏は全て聴いているのですが、やはり、一度聴いたらそれで終わりというものではないのですね。

再演、再々演と回をおう度に新しい感動を覚えますからね。

そんな中で私が、最も聴きたいのは、ベートーヴェンとブルックナーですね。

ブルックナーの音楽を広めた朝比奈氏の功績は大きいですし……。

別な言い方をしますと、朝比奈氏が「もう一度一から勉強し直して、やってみたい」と思われた音楽ですね。これを私は一番聴きたいと思いますし、また、それが最も素晴らしい演奏になると思います。

あまり目移りしない音楽とでも言いますか、それが朝比奈氏の持ち味だと思いますから……。

朝比奈氏の素晴らしいところは、継続性と、忍耐力ということになりますかね。

もちろん、関西という土壌ですね、そして、極限されたレパートリー、そういった継続できるような外的な条件と、一個の人間として持っておられる能力と、それがうまくミックスされて朝比奈氏の今日があるのだと思います。

目移りしがちな人間ではできない、息の長い活動をやってこられたわけです。

ですから、人間的にも音楽的にも素晴らしい成熟をされたのです。

じわじわと年輪を重ねてきたという、言わば典型的な大器晩成型の方ですね。

環境、才能、全てをうまく自分自身の中に取り込みながら熟成させていった、非常に希有な人だと思います。

もう、こういった人物は、今からの時代では、現れないでしょうね。

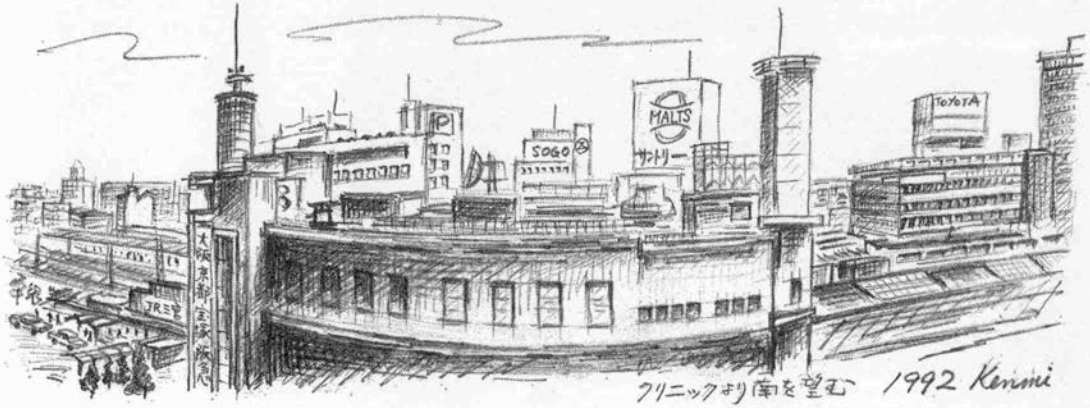
腰を据えて、じっくりと長期戦法でやってこられた方ですからね。

聴くファンも成熟してきましたし、やはり、その上をいく能力があったわけです。

朝比奈氏の隠居姿など、私には想像できませんし、ずっと表舞台に立ち続けていただきたいと思います。』

▲大阪フィルハーモニー会館でのリハーサル風景

▼昨年2月18日の定期演奏会より



□スケッチ随想／窓からの風景①

阪急三宮駅

吉田　建美〈絵と文〉

私が育ったのは須磨の千守町。マリストブラザースの北側で、今も親父と母が住んでいる。そのせいか、光と風と水を感じる神戸の窓から見える風景が、なぜか好きである。

塩屋のシーサイドパレスに住んでいた頃、ふっと窓から見える海と淡路島とヨットの風景をスケッチして年賀状に描いてみた。

意外な反響で、以来15年、ずっと気楽にその年のテーマを定めてスケッチしている。

昨年、阪急三宮駅東口山側にある三宮エビスビルの8Fで、阪大をやめて開業することになった。それも富士銀行神戸支店のお世話で何軒か紹介してもらい、駅を降りて近いところから、先ず手初めにエビス工務店のこのビルの8Fを見せてもらって、パッとここにしようときめてしまった。

8Fのビルの南に向いてる窓が吹きぬけで高く明るく阪急三宮駅界隈と空が見渡せる風景が気に入ったのだ。そして平成4年の賀状は開業を記念して、このクリニックより南を望む風景になったという訳である。

学生時代からのヨット好き。塩屋時代は須磨のハーバーの仲間たちとよくヨットを楽しんだ。コトブキの細谷さんもヨット仲間。

今、絵の方は油絵にとりくんでいる。

〒650 神戸市中央区北長狭通1-2-2 三宮エビスビル8F

吉田　建美　吉田矯正歯科クリニック　TEL. 078-332-5735

地域文化論

「浜松昨今」

水谷　頴介〈都市計画家・建築家〉

〈その151〉

10年ほど前に、他都市と比較しながら姫路の行動方向を展望しようと、シンポジウム「城下町・技術都市・国際社会―浜松↔金浜↔熊本↔姫路」の企画に協力した。

この会合で、浜松は家康の出世城といわれて誇りがたかく、県施設を誘致しないですべて自前で設置してきた。国際交流では、ホンダ・ヤマハ・スズキの社員など海外生活経験家族が多く特別の話題でなく常識です、と発言があった。

地方自治体の姿勢としてこの話にその後興味をもちつづけていたので、今回浜松市を訪問した機会に、実状をたしかめてみた。

県施設を誘致しないという話は敢えてしないということではないらしい。どうせ静岡市とか中央部に決ってしまうから、結局必要な施設は自前でやってきたということだそうである。浜松医科大学も土地を先行買収してきてもらったという。現在では、県音楽公園の計画が浜名湖岸で進んでいる。

国際交流では、企業活動がひろく世界の都市にまたがって活躍しているため、特定の都市との姉妹都市施策は浜松市はとらない方針だという。

だが、これからの「音楽のまちづくり」の一環として、この分野に限って、ワルシャワとサンレモとの協定を結ぶそうだ。そして、浜松市でもコンベンションビューローが平成元年6月に設立されていて、活動しはじめている。

姫路と浜松を並べたシンポジウムのきっかけに、立派なお城にふさわしくない姫路の町の伸びなやみと、浜松では昔の浜松工専、今の静岡大学工学部の存在が、ホンダ・ヤマハなどの技術産業の多様さにつながり、姫路工大のある姫路はどうしてかつての冨士鉄を超えられないのか、という疑問があった。今度も、まず、静岡大学工学都キャンパスを訪ねて、高柳健次郎胸像やつづいて旧浜松工専跡地の記念碑を訪問してきた。工専跡は今は市立高等学校（女子のみ）、明治34年創設の浜松高等女学校の伝統名門校である。

浜松は、いま駅前や周辺部で都市開発が活発である。東海道本線と遠州鉄道の高架工事と貨物駅の移転にともなう駅周辺土地区画整理事業が昭和62年3月に完了して、大きな吹抜けのある駅前広場と地上の円環状のバスターミナル、駅ビルが出来上り商業核にフォルテと名付けられた堂々たる吹抜けのアトリウムがあるビルや再開発事業によるホテル、オフィスビル、百貨店などが林立している。

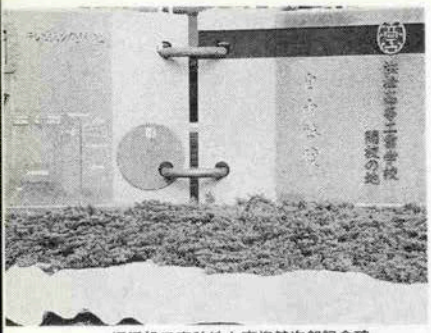
この東側は、2500席と1500席に変換可能な大ホールや地上45階にインテリジェントオフィスとホテルの超高層ビルなどが複合するアクトシティという大建築群の建設工事が始まっている。

周辺部では西郊の佐鳴子湖西岸のフォレストパークや北郊でのテクノポリスの中心地である都田土地区画整理事業が平行している。

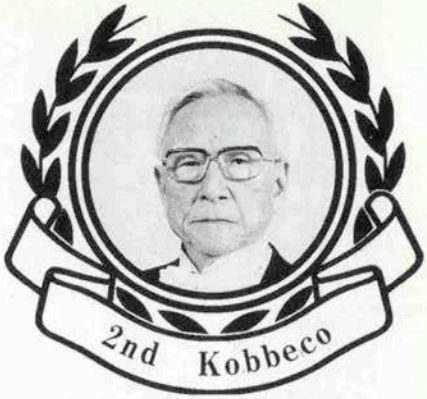
これらのプロジェクトは、高度な産業技術が集積する都市―テクノポリス、人・物・情報が交流する都市―コンベンション、世界の音楽文化が薫る都市、の3つの目標に向けての施策である。

浜松では、従来、楽器はあっても音楽がない、といわれてきたらしい。

夜、駅前を歩いてみた。新しい施設群に比べて、ほとんど人通りがない。企業都市につきもので、就業者は会社から自宅に向けてマイカーで直結してしまっているのだろう。巨大投資と経営バランスが心配になった。施設をつくって人々が集まる状況にはまだまだ多くのしかけも必要だし、脱勤勉な企業人間による美感遊創を楽しむ市民像の出現にはまだまだ時間もかかるだろう。労働都市宇部には昭和12年建設の名ホール、渡辺翁記念会館を足場に歩んできた戦後混乱期にスタートした宇部女子音楽協会というよきお手本がある。



旧浜松工専跡地と高柳健次郎記念碑



●第二回 神戸っ子賞選考座談会

パワフルに、情熱的に世界への音楽発信 朝比奈 隆に

——昨年本誌30周年を記念して設定された神戸っ子賞は、今回2回目となります。他のブルーメール各賞とは少々趣きも違いますので、選考委員のメンバーも多少変化します。よろしくお願いします。

★多彩に活躍の〝神戸っ子〟達

A 昨年の受賞者**淀川長治**は、本当に神戸らしい人で、娯楽は映画という時代の生んだ代表者ですね

B この賞の選考対象となる人は、神戸らしい人、神戸を舞台に活躍する人、神戸から情報発信をする人、が考えられます。

A 情報発信では、作家の**陳舜臣**。次々と作品を出し、来年はNHK大河ドラマ〝琉球の風〟で出てきます。**山崎正和**も県の芸術文化で活躍していますが、もう少し話題になってからが良いのではと思いますね。**田辺聖子**も次々と情報発信をしています。

B 同じく伊丹に住んでいるが、作家**宮本輝**もいいですね。

C 姫路出身ですが、**桂米朝**は関西を舞台に活躍。折目正しい落語家で、本も出版したり功績は大きいです。芸能といえば**高島忠夫**、**寿美花代**もがんばっています。

D 息子二人も、特に**政伸**はキャラクターがすごいね。

●選考委員●

米花 稔さん
<福山大学教授>

小笠原 暁さん
<芦屋大学教授>

C 芸術では、**小磯良平**や**田村孝之介**が生きていたら、ピッタリなのですが。

A 詩人の**竹中郁**も。考えたら多くの人が神戸から出ていますね。

B 現在、彫刻家の**新谷英夫**は大きな存在ですね。

D **東山魁夷**は、神戸の風土の資質が作品に表われています。

C 〝神戸〟というと、**宮崎辰雄**前市長も挙げられます。

B **石野信一**も商工会議所でコーラスグループを作り、大阪や京都には無い楽しい雰囲気を作りましたね。

C 財界では、ダイエーの**中内功**、乾汽船の**乾豊彦**、神戸製鋼の**亀高素吉**がありますが、少ないですね。

A ソニーの**井深大**も神戸育ちですが、あまり知られていませんね。

B　卒業学校を考えると、旧二中、三中出身の人は神戸への貢献度が大きいように思えます。学校の性格があるのかも知れませんが、学校を表彰すべきでしょうか(笑)。

C　昔は経済人が文化に随分寄与していましたが、現在旦那衆が少なくなり、尼崎信用金庫の**氏平競重**と大関の**長部文治郎**位ですね。

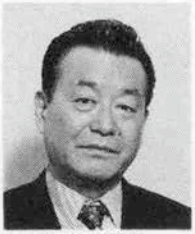
B　音楽では**辻久子**が兵庫県代表、**末広光夫**も面白いと思いますが。

A　昨年も挙げられましたが**朝比奈隆**。現役最長老で、灘区在住で世界に発信しています。

大阪フィルハーモニー交響楽団を指揮する朝比奈隆氏

D　女性では、**田中千代**が今年作品展をしました。

C　書道の**望月美佐**もがんばっています。



小泉　康夫
〈月刊神戸っ子
代表取締役社長〉

石阪　春生さん
<画　家>

B　**土井芳子**も色々な会合に出て来て、良い姿勢ですね。

C　引退したが、灘生協の**永谷春子**も素敵な人ですね。

B　神戸に居る時間は少ないが、**兼高かおる**は週刊新潮に長い間連載していましたよ。

★世界に誇る神戸在住の指揮者

――候補者も出揃ったようですので、今年の〝神戸っ子賞〟を選んでいただきます。

C　永年の功績を讃え、**朝比奈隆**が最適かと思います。

D　昨年の**淀川長治**から雰囲気も繋りますしね。

C　どちらも現役というのがいいですよ。

B　お話しも上手で、地域や都市の事にも関心を持っておられる。

A　お歳は84才ですか。しかしパワフルですね。

D　そして情熱的です。

B　大阪フィルの練習場が新しく難波にやっと出来ましたが、それまでずっと扇町のスタンドの下で練習されていました。大変だったと思いますよ。

A　世界に誇れる神戸っ子です。

〈文中敬称略〉

■受賞者メモリアル

1、淀川長治／映画評論家

●第二十一回 ブルーメール賞選考座談会
《音楽部門》

創意あふれる解釈での演奏を評価 中野慶理に

★人材不足の中で……

A ここ数年間、低迷が続いていますね。音楽界も人材不足です。

B 特に、兵庫県下という風に限定されてきますからね。

C 私も、昨年一年間に聴いた中で、特別に群を抜いて心に残った演奏というのは無かったように思いますね。

A 今年も難しいですね。

私が、まず、頭に思い浮かべるのは、**中野慶理**(ピアノ)ですね。ちょっと時期が早いような気がしますが、いかがでしょうか。

昨年、候補として挙げた人達は本年度は、ほとんど目立った動きをしていませんし……。

B **中野慶理**は継続して毎年、活動していますしね。しかし、ちょっと早い気はしますね。

C **中村健**はどうですか。

B 指揮者ですね。

C ええ。数的には、かなりこなしていると思うのですが……。

B しかし、日本では、まだまだニュー・フェイスといった感じが強いですね。

指揮というのは、ある程度、経験が必要とされますから、少し、早過ぎるような気はしますね。

奥千恵子(ピアノ)はいかがですか。

A 芦屋の人ですよね。

B そうです。音楽がまじめ過ぎるような気がしますね。フォルテピアノを使うという必要性が全く感じられないんですよ。

A それは同感です。

C どういう意味ですか。

B とにかく、きっちりとまじめに弾きこなしたというだけでね。

A よく勉強はしていると思うのですけれども……。

C フォルテピアノを使う必要性は無いと……。

B そういうことです。

C 団体でもよろしいですか。

——ええ、けっこうですよ。

●選考委員●

小石 忠男さん
<音楽評論家>

柴田 仁さん
<音楽評論家>

出谷 啓さん
<音楽評論家>

C　**コレギウム・ムジクム・テレマン**はいかがでしょうか。

B　良いと思いますけれど……。ちょっと新し過ぎませんか、二年目ですからね。

　しかし、初期の頃から比べるとはるかに良くなっていますよ。最近は、自信もついてきたみたいですね。

C　将来性はありますから、候補にはなりますね。

A　印象に残っているのは、先程挙がりました、**中野慶理**なんですけれどね。

C　歌では、**井岡潤子**は素晴らしいですよ。しかし、神戸ではやっていませんね。大阪の人ですし……。本当に素晴らしい声質だと思います。

B　最近、彼女は本当に売れっ子ですよね。

C　大フィルの**デュオハヤシ**はどうでしょう。

B　チェロはうまいんですけれどもね。

C　西宮の**添田孝**（ピアノ）はどうですか。

B　スペインものは良い出来でしたよ。モーツァルトは、もう一つという感じでしたね。

　今まで挙がった中では、団体では、**コレギウム・ムジクム・テレマン**、個人では**中野慶理**ということですかね。

C　そうですね。**三木香代**（ピアノ）も一度、神戸でやっていますね。実家は、龍野ですし……。

A　もう一息といった感じがしますね。印象ということになりますとね、やはり**中野慶理**以外は、思い浮かばないのですが……。

C　最近、神戸を離れてしまうアーティストも多いですしね。若い人達の方へ視点を移す必要性があるかもしれませんね。

　中野慶理の場合は、内容もありますし、あと、新人奨励賞的な意味も含めて、決定してはどうでしょうか。

A　そうですね。今年の秋、神戸でリサイタルをやるという予定もあるそうですし……。

B　決定ですね。異議はありません。がんばってもらいましょう。

＜文中敬称略＞

大阪厚生年金会館（中ホール）での本番リハーサル風景

■受賞者メモリアル

1.	田原　富子／ピアノ	11.	伊藤　ルミ／ピアノ
2.	矢野恵一郎／合唱指導	12.	井上　和世／声楽
3.	上月　倫子／バレエ	13.	末広　光夫／プロデュース
4.	今岡　頌子／バレエ	14.	安芸　栄子／声楽
5.	小石　忠男／音楽評論	15.	延原　武春／指揮
6.	中村　茂樹／作曲	16.	中西　覚／指揮
7.	関　晴子／ピアノ	17.	青井　彰／ピアノ
8.	坂本　環／声楽	18.	広岡　隆正／声楽
9.	山内　鈴子／ピアノ	19.	戎　洋子／ピアノ
10.	松本　幸三／声楽	20.	大前　哲／作曲

●第二十一回 ブルーメール賞選考座談会
《ファッション部門》

中日友好ファッションショーで躍進 丹野最世子に

A 昨年はKFFがイタリアをテーマに展開しました。

B 昨年のニュークリエーターはどうでしょう。

C ニュークリエーターは、近藤徳明（ワールド）半田美智（ヴァレン）山本ちよ子（ジャヴァ）若井和光（イズムグループ）の4名。

D それぞれ個性のある作品で見ごたえがありました。

B イタリアから新しいデザイナー、マウリツィオ・ガランテはエコロジーを意識した作品で話題を呼びました。

C 市立博物館での「ジャンニ・ヴェルサーチ衣裳文化展」はとてもすばらしかったですね。

A 六甲アイランドの神戸ファッションマートは、従来にないファッション・ビジネスセンターということで話題性があります。

B 一般客が入館できない点は残念ですが、国際的なファッション都市神戸の発展に大きな役割を果たすでしょうね。

A 昨年のファッション界を振り返ってみるといろいろな意味で、神戸のファッション業界にとって実りの多い年でした。芸術工科大学の開校、六甲アイランドの神戸ファッションマーケットセンターのオープン、ニュークリエーターの発表、そしてKFMの中日友好ファッションショーなどですね。

B その中でも特に印象に残っているのが、KFMの中日友好ファッションショーです。

C 中国行きに関しては、上海の留学生朱海倫と、演出で中国通の岡田美代がきっかけになり、やろうということになりました。

B それならば、いつも一緒に組んでもらっている真珠メーカーに応援していただこうということで木下真珠の木下章夫社長が応援団長として、約20名の人々と共に参加しました。ファッションショーの真珠は大月真珠の提供で、松谷

●選考委員●

小泉 美喜子
<本誌編集長>

重兼 亘さん
<神戸新聞広報部>

藤本ハルミさん
<デザイナー>

福冨 芳美さん
<神戸ファッション専門学校校長>

由夏が真珠のコーディネーターとして参加しました。

C　今回の企画での特色は、上海・杭州地元のモデル、スタッフを使い共同で行なったことです。言葉の面では苦労しましたが、本当に一緒に仕事をしたという充実感がありました。

D　そういったファッションショーは中国では初めてだったのですか。

C　初めてではないのですが、とにかく反響がすごくて、チケットの問い合わせが殺到したそうです。

B　今までの場合は、日本からたくさんモデルとスタッフを連れて行くという形式がほとんどでしたから。

A　KFMのデザイナーは日本からは何名行かれましたか。

B　大西節子、丹野最世子、前川冨貴子、藤本ハルミの4名が参加し、市野木悦子と長井弘子は作品のみの参加でした。特に丹野がよく頑張っていました。今までは、トロピカルなかんじのものが得意でそういう風な服作りでしたが、中国のショーでは、初めて東洋的なドレスに挑戦し彼女の新しい面を見せたと言えるでしょうね。

D　独自の個性を持っているという意味では、デザイナーらしいデザイナーです。

アトリエにて

A　中国の水墨画と書との出会いがありました。

B　出品作品の中でも、彼女の水墨画の先生との合作が2点あり、シルクの素材にツルとボタンが描かれたものは、派手さはないのですが良く出来ていました。

A　全国的なイベントが目立つ中個人的なデザイナーの動きが少ないので、それは特筆すべきですね。

C　技量的には、大西節子はオートクチュールらしい優れたテクニックを持っていますね。

D　自分の個性を持って様々な試みを行うことに成功した丹野最世子を、今年のファッション部門に決定します。

〈文中敬称略〉

■受賞者メモリアル

1. 服飾デザイナー／藤本ハルミ
2. 神戸市心身障害福祉センター／米田博司
3. ニットデザイナー／市野木悦子
4. コウベジュニアテーラーズクラブ／KLTC
5. アートフラワー／大田タマコ
6. コウベファッションソサエティ／K.F.S
7. パール／「真珠の街・神戸」を考えるプロジェクトチーム
8. 家具／神戸市家具青年会
9. コウベファッションモデリスト／K.F.M
10. 書道家／蓮月美佐
11. コウベファッションクリエーターズ／K.F.C
12. ジャーナリスト／村上和子
13. デザイナー／中村一夫
14. 柴田グループ代表／柴田音吉

●第二十一回　ブルーメール賞選考座談会

《舞台芸術部門》

地道に古典を勉強
弟子育成でも地域に貢献
花柳芳圭次に

A　まず、日本舞踊の話題からいきましょうか。

B　三桜会では**花柳呂月**師が、大和楽〝炉辺〟を底光りの芸で見せ、金鈴会では**若柳吉童**師が〝玉兎〟を味わい深く見せてくれました。又、**若柳吉金吾**の会では吉金吾が**高瀬浩幸**と〝ボレロ〟を出し、洋舞、日舞の出会いをよく消化していました。**大和松蒔**の〝山姥〟も、実力を感じさせましたね。

C　**花柳小三郎**はこれからの活躍を期待したいですね。

A　**花柳芳圭次**はコツコツと頑張っていますね。華やかなものばかり追いかけず、地道に古典をしっかり身につけています。

C　それに弟子育成も上手です。教えるということにおいて地域文化にも貢献されていますね。

A　**花柳芳一**の〝河〟は、昨年のトップの一つに挙げたいです。きっちり丁寧に踊っていました。

B　能楽では、**上田拓司**が、〝忠度〟、〝船弁慶〟、〝安達原〟、〝楊貴妃〟の四大曲を演りました。

●選考委員●

岡田　美代さん
<演出家>

名生　昭雄さん
〈兵庫県立宝塚北高校校長〉

佐野　漣箕さん
〈元神戸新聞取締役文事局長〉

C　大変なことですね。

B　〝楊貴妃〟が一番良かったがそれにしてもお父さんに似てきました。将来が楽しみです。

C　四人兄弟で故**上田照也**師も幸せ。よき環境ですくすくと伸びて欲しい。

B　洋舞では、**貞松・浜田バレエ団**が、昨年ブルーメール賞でしたが、ますますの活躍を見せてくれました。東京、大阪、神戸での〝白鳥の湖〟。実力を発揮しました。

A　どこのバレエ団も若手の男性が不足気味なのに、ここは実に豊富ですね。

C　貞松、浜田御夫妻の企画力、指導力、努力を評価したいです。

B　**江川バレエスクール**の**江川幸作**が昨年の2月亡くなりました。その企画を継いで、のぶ子夫人が上甲裕久構成、振付による三島由紀夫近代能楽集〝卒塔婆小町〟よ

りの〝花まんだらけ〟の創作舞踊に挑みましたね。

A　本当に舞台で勝負する人だと感じました。

B　老醜の女を演じた時の能面の様な表情、まばたき一つせずお見事。

C　ここの**太田由利**を始め、若手がとても良くなってきましたね。

B　**馬場美智子**が久しぶりに新神戸オリエンタル劇場で公演。健在ぶりを示しました。**伴須美**がフラメンコを貫録十分に踊りました。堂々たる風格で。

C　**藤田佳代**の〝さくらさくら〟は**東仲一矩**とのコンビネーションは良かったですが、型にはまり過ぎているような気がしました。意欲的ではありましたが…。

A　新劇では**四紀会**はやはりマイペースで頑張っていますね。

B　トピックスとして、谷上の農村歌舞伎舞台で、**甲南大学歌舞伎研究会**が〝車曳〟〝太功記〟を上演、あと**谷上小学校**の生徒達が子供歌舞伎で注目されました。

A　最近、**新神戸オリエンタル劇場**が地元の劇団と結びついて芝居をやろうという姿勢を見せてきましたね。

C　大変良いことで刺激を与えてほしいです。それにしても、神戸にはホールはあっても劇場が少ない。

B　創るのなら街の真中に、例えば生田神社の前に〝神戸歌舞伎座〟でも創ってもらいたいですね。

A　これからは文化を大切にする都市が繁盛します。山の中でなく人の多い街の真中に創らないと周囲が栄えません。

C　そろそろ賞の選考に…。

B　バレエでは**江川のぶ子**、日舞で**花柳芳圭次**ですね。

A　長年の努力の積み重ね、後進の育成を評価して、**花柳芳圭次**を推します。

B　昨年3月には名流舞踊の会で新作〝兵庫旅情〟、12月には圭柳会の〝明石町〟で実力を見せました。地味ではありますがきっちりと古典を勉強されているのがいいと思います。

C　では**花柳芳圭次**に決定しましょう。

〈文中敬称略〉

上／昨年3月の名流舞踊の会。〝兵庫旅情〟より〝須磨の敦盛〟を舞う。
下／昨年12月の圭柳会舞踊会、〝明石町〟。

■受賞者メモリアル

1. 邦舞家／花柳芳恵一子
2. 邦舞家／若柳吉由二
3. 能楽師／吉井　順一
4. 邦舞家／花柳芳五三郎
5. 邦舞家／花柳　吉叟
6. 邦舞家／藤間緑寿郎
7. 邦舞家／尾上　菊見
8. 能楽師／藤井　徳三
9. 仮名手庵歌舞伎／海野　光子
10. 演劇／コメディ・ド・フーゲツ
11. モダンダンサー／加藤きよ子
12. 舞踊家／藤田　佳代
13. 邦舞家／花柳五三輔
14. 映画監督／白羽　弥仁
15. 邦舞家／松本　尚蒔
16. 笑クリエイト社／楠本　喬章
17. フラメンキスト／東仲　一矩
18. 能楽家／久田　徹二
19. 邦楽／大和楽「蘭の会」
20. 真松・浜田バレエ団